

別添

令和4年度

# 都市景観大賞

## 受賞概要

都市空間部門

景観まちづくり活動・教育部門



「都市景観の日」実行委員会

# 都市空間部門 受賞地区一覧

## 大賞 国土交通大臣賞

地区名	地区面積	応募者
大阪府大東市北条 <small>ほりょう</small> 地区 (大阪府大東市)	約1.1ha	<ul style="list-style-type: none"><li>・大東市</li><li>・株式会社コーミン</li><li>・東心株式会社</li><li>・株式会社ブルースタジオ</li><li>・株式会社石本建築事務所</li><li>・もりねき未来会議</li></ul>

## 優秀賞 「都市景観の日」実行委員会 会長賞

地区名	地区面積	応募者
先斗町地区 <small>ほんまちょう</small> (京都府京都市)	約2.1ha	<ul style="list-style-type: none"><li>・先斗町まちづくり協議会</li><li>・京都市</li></ul>
久松地区 <small>きゅうしょう</small> (鳥取県鳥取市)	約37ha	<ul style="list-style-type: none"><li>・鳥取市</li><li>・鳥取市教育委員会</li></ul>
倉敷市阿知3丁目東地区 <small>あち</small> (岡山県倉敷市)	約1.7ha	<ul style="list-style-type: none"><li>・あちてらす倉敷まちづくり協議会</li><li>・倉敷まちづくり株式会社</li><li>・倉敷市</li><li>・株式会社アール・アイ・エー</li><li>・株式会社藤木工務店</li></ul>
新山口駅周辺地区 (山口県山口市)	約2.2ha	<ul style="list-style-type: none"><li>・山口市</li><li>・株式会社プランツアソシエイツ</li></ul>

## 特別賞 「都市景観の日」実行委員会 会長賞

地区名	地区面積	応募者
竹芝地区 (東京都港区)	約28ha	<ul style="list-style-type: none"><li>・一般社団法人竹芝エリアマネジメント</li><li>・東京都</li><li>・港区芝地区総合支所</li><li>・東急不動産株式会社</li><li>・鹿島建設株式会社</li><li>・株式会社アルベログランデ</li><li>・竹芝 Marine-Gateway Minato 協議会</li><li>・一般社団法人竹芝タウンデザイン</li><li>・東日本旅客鉄道株式会社</li><li>・株式会社 JR 東日本建築設計</li><li>・株式会社水辺総研</li><li>・公益財団法人東京都島しょ振興公社</li><li>・株式会社石勝エクステリア</li><li>・竹芝地区まちづくり協議会</li><li>・一般社団法人 CiP 協議会</li><li>・公益財団法人東京都公園協会</li><li>・東京港埠頭・テレポートセンターグループ</li><li>・国立大学法人東京海洋大学 佐々木剛研究室</li><li>・東京都立芝商業高等学校</li></ul>

## 総評

審査委員長 陣内 秀信

今年度は応募こそ12件とやや少なかったが、新たなチャレンジとなる多種多様な景観づくりの優れた事例が目白押しで、審査にもより熱が入った。

巨大都市中心部での緑・水を取り込む大規模再開発に対し、花街や城跡地区での歴史・文化を活かした景観演出、また駅と歴史地区の間での伝統空間と対話する再開発。駅を巡っては、市民のコモンズを生む駅周辺の都市デザインや旧駅舎の再築。さらには都市周辺部の斬新な発想と社会性を持つ市営住宅建替え、水辺のランドスケープを追求した地域施設の建設、そして震災復興事業の成果。景観を軸に個性豊かな街づくりへの試みが全国各地で大きく実を結んでいる状況が浮き彫りになった。

なお、審査は今年度も一次、二次ともオンライン形式ながら円滑になされ、その間に行われた現地審査も地元関係者の方々のご協力で滞りなく実施できた。

圧倒的な支持を得て大賞に選ばれたのは「大阪府大東市北条 (morineki) 地区」である。老朽化した市営住宅の建て替えだが、現地審査委員に「何でこんなことができたのか」と唸らせたほどに、既成概念を打ち破り、民間主導の公民連携で住宅に加えオフィス、商業を巧みに併設し、豊かな生活と活動の場を実現して見せた。総合性、社会性を備えた事業手法は、今後の公営住宅建て替えのモデルになるとの高評価を得た。

そして優秀賞が4つ選ばれたが、例年なら大賞もありうる成果が揃っていた。まず、京都の花街「先斗町地区」は、地元の熱い思いと粘り強い努力の積み重ねで、屋外広告物の撤去と無電柱化を実現し、伝統空間の魅力を見事に取り戻したことに高い評価が与えられた。「新山口駅周辺地区」は、駅の北と南の広場、途中に垂直の庭をもつ自由通路がその南北を結び、全体として街とも繋がる居心地の良い市民の滞留の場を生んでおり、美しい空間デザインと共に地域の活性化に大きく貢献している。鳥取城跡にあたる「久松地区」は、実現された堀端の道路の美装化と無電柱化、象徴的な橋と御門の復元に加え、城の復元も見据えた自然、歴史・文化資産の活用の取り組み全体が、地方城下町の景観まちづくりに良き方向性を示す成果といえる。「倉敷市阿知3丁目東地区」は、美観地区へ導く玄関口という場所性を考え、高さとボリュームを抑え、分棟と雁行の配置、公共性のある滞留空間の演出、店舗の賑わいを生む空間デザインを実現し、身の丈にあった再開発として好評を得た。

一方、東京の海の玄関口・竹芝埠頭とその背後での大規模な再開発が集合した「竹芝地区」には「特別賞」が与えられた。全体を貫く個性や魅力にまだ欠けるものの、随所に優れた景観を見せる個別の開発を繋ぎ、連続的な都市空間としての質を上げる努力が実を結び始めた点が評価されたことによる。

## 大賞 国土交通大臣賞

## 大阪府大東市北条 (morineki) 地区

所在地 大阪府大東市

地区面積 約1.1ha

応募者 大東市、株式会社コーミン、東心株式会社、株式会社ブルースタジオ、株式会社石本建築事務所、もりねき未来会議

## 地区概要

北条地区は大阪府大東市にある JR学研都市線四条駅東側の東側に位置する。整備前は老朽化した市営住宅や都市計画公園があり、店舗、店舗併用住宅、戸建住宅、市営住宅の混在地区であり、大東市内の他の地域よりも10ポイントほど高齢化率の高い地域。本市では市営住宅の建て替え計画を機に、公園、道路、河川、橋梁を一体的に、生駒山系の豊かな自然に寄り添う北条地区のランドデザイン、エリアビジョンの再構築を行い、まちづくり会社による公民連携の事業スキーム（PPP エージェント方式）を用いた住宅、オフィス、店舗及び公園を合わせた複合用途の賑わいまちづくりを実現させた。賃料収益を生みだすべきオフィス、店舗部分のテナントはエリアのランドデザインに共感する企業が着工前に名乗りを上げ、その状況をもって金融機関からの建設資金の調達を成功させている。

職、住の隔てなく、自然環境豊かなこの地で暮らしの環境を育む「北条の樹」のビジョンは、ここで生まれる多様な人々の交流そのものをこの地域固有の情景に変えている。地理的環境と歴史的環境を活かした街並みの整備によって、地域には新しい賑わいの拠点と共にシビックプライドが芽生え、定住人口も増加傾向に転じている。

## 審査講評

写真からは、今時のおしゃれでヒューマンなデザインと見える。しかしこれが戸数を大幅に減らした公営住宅建替プロジェクトだと聞けば、なぜこのようにできたのか、という疑問が湧く。簡単には説明できない徹底した公民連携のプロセスがその鍵であった。景観の創出には事業の仕組みやプロセスにジャンプが必須である、そしてそれは可能なのだ。事業がもたらしたアウトカムは、住む、集う、働く人のウエルビーイングであり、周辺地域のイメージの転換と雇用や経済効果である。それを実現させたのは、敷地の力を育てるコンセプトとランドスケープ、あらゆるディテールというデザインの力である。プロジェクトチームの一人ひとりが、この場所をどのようにしたいのかを突き詰め、描いたビジョンの力が、多くの人々の心に響き、それぞれの仕事をイキイキとさせる。そのプロセスと情熱と勇氣は、現代日本社会に大きな元気を与えてくれる。文句なしの大賞である。（佐々木）



権現川の恵を受けて、飯盛山に力強く伸びていく樹、「北条の樹」が開発のイメージコンセプト。



都市公園と住宅棟群と商業棟群とそれぞれ敷地が分かれていながら、計画全体が公園のように連続している。



商業・オフィス棟は、一棟の建物であるが、建物を雁行させ、それぞれの建物高さを変えることで、小さな商店の連なりに見えるように配慮している。



都市公園と連続する中庭では、住人間のみならず歩行者も含めて様々なコミュニケーションが見られる。

# 優秀賞 「都市景観の日」実行委員会 会長賞

ぼんとちょう

## 先斗町地区

所在地 京都府京都市  
 地区面積 約2.1ha  
 応募者 先斗町まちづくり協議会、京都市

### 地区概要

先斗町地区は鴨川の右岸、三条通と四条通との間に位置し、花街として栄えてきた一画である。茶屋の減少によって飲食店が進出し、地区の中心を南北に走る先斗町通は屋外広告物に埋め尽くされた雑然とした町並みとなっていた。しかし、平成22年から屋外広告物の自主改善事業を開始し、その後は先斗町まちづくり協議会と京都市の協働による景観保全をハイスピードで実践してきた。令和3年に無電柱化事業が完了するまでに、町並み調査・地域景観づくり協議会の認定・界わい景観整備地区の指定（景観地区の規制強化）・屋外広告物等特別規制地区の指定といった景観保全の取り組み、軒下花展・まちあるきイベント・セミナー開催といった景観保全に対する意識啓発の取り組み、そして、このまち守り隊など歴史的景観を災害などから守るための取り組みを同時並行で実施している。

その結果、先斗町通から美しい景観と綺麗な空が見えるようになった。茶屋建築が多く残る先斗町通は、かつての花街としての景観を取り戻したといえる。

また、景観保全の取り組みを通して、先斗町まちづくり協議会を中心に行政・大学・他地区のまちづくり組織など様々な主体が連携し、新たな課題にチャレンジできる体制を構築している。

### 審査講評

京都には重伝建地区がいくつもあるなか、花街として知られる先斗町の歴史景観は忘れられていた。時代の流れで茶屋が減り、各種飲食店が増えたことで、路上の看板、広告物が氾濫し、本来の空間の個性、魅力が完全に失われていた。

その危機感から地元のリーダー達が立ち上がり、2009年、「先斗町の将来を考える集い」を作り、地域独自のルール「先斗町町式目」を設けて、屋外広告物の自主改善事業に取り組んだのが、全ての始まりだった。それから13年、地道な努力が実り、全長490mに渡って先斗町らしい看板の演出に成功し、さらには京都市、関西電力の支援のもと無電柱化事業を達成でき、花街のルーツをもつこの先斗町は見違えるように美しく甦った。さすが先斗町、無電柱化に際しては、地上機器、配管にも美意識が発揮され、舗装のデザインにも洒落た工夫が施された。地元子供達も制作に参加する軒下花展が町並みに彩を加え、コロナ禍で考案された京行燈の設置が夜間景観の粋な魅力を生んでいる。南北に大きく広がる7町会を束ね、業種ごとの利害対立を乗り越えて組織、運営されている「先斗町まちづくり協議会」が果たした役割は極めて大きく、まさにボトムアップ型の景観まちづくりが実を結んだ価値ある成功例といえる。（陣内）



屋外広告物の自主改善事業を実施、令和3年に無電柱化事業が完了し、花街の景観は大きく改善した。（左：2021年10月、右：2012年3月）



無電柱化事業で設置された地上機器は、場所に応じて覆い屋などで美化。先斗町通の入口部分の舗装は、シンボルである千鳥がデザインされている。



軒下花展開催時の先斗町通の夜間景観。



コロナによる営業形態と夜間景観の変化に対応するために、設置した京行燈（右下）。

# 優秀賞 「都市景観の日」実行委員会 会長賞

きゅうしょう

## 久松地区

所在地 鳥取県鳥取市  
 地区面積 約37ha  
 応募者 鳥取市、鳥取市教育委員会

### 地区概要

久松地区は JR鳥取駅の北方に位置し、久松山山系をはじめ、日本100名城である国指定の史跡鳥取城跡、日本さくら名所100選に選ばれた久松公園、国の重要文化財の仁風閣など歴史的建造物が数多く存在する鳥取市の観光名所の1つである。

史跡鳥取城跡は保存整備基本計画に基づき整備を進めており、城跡の復元を通じて、鳥取の歴史や誇りを次世代に伝えとともに、鳥取の魅力をより一層高めていくことを目指している。

以前のお堀端通りは、歩道幅員が狭いうえに道路に並行して駐車場があったため、安全性、利便性の確保などに問題があった。また、電柱や電線による景観の阻害も問題となっていたため、これらを解消するために道路の無電柱化や美装化などの一体的な取り組みを行った。

こうした様々な取り組みについて市関係課等が連携を図りながら実施することにより、地区住民をはじめ観光客など来訪者への魅力の発信につながり、年々多くの人を訪れている。

鳥取城の象徴でもあった「二ノ丸三階櫓」の復元について2032年の着手を目指すなど、今後もより一層鳥取の魅力を高めていくと同時に、自然・歴史・文化が調和した景観の保全にも努めていく。



街なみ環境整備事業により美装化、無電柱化、歩道拡幅を行ったお堀端通り。歩道拡幅により、生徒の通学時における安全性が確保された。



お堀端通りから久松山を背景に鳥取城跡を望む様子。美装化などの環境整備に加えてベンチなどを効果的に配置することでくつろぎ空間を確保。

### 審査講評

久松地区は、鳥取県の久松山山系に位置する近世城下町の佇まいを有する地区にあり、鳥取市景観計画の「久松山山系景観形成重点区域」に位置する。平成17年に国指定「鳥取城跡」の全体の保存整備計画を策定し、「擬宝珠橋」や「中ノ御門表門」を復元、このほど「久松地区街なみ環境整備事業」により、電柱の地下埋設、歩道拡幅、歴史的景観に配慮した独自の美装事業を実施した。この美装街路は、城の絵図などを参考に、他に類をみない色彩となっており、城址景観をより往時に近いものとしている。市では平成18年の「史跡鳥取城保存整備基本計画」を策定以降、教育委員会、都市企画課（景観所管）、道路課等そして、地元の市民団体「久松山を考える会」が連携協力して事業を行ってきたという経緯がある。地区内には、久松小学校と県立西高等学校があり、子供たちが「橋磨き」に参加している。また、県立西高等学校生徒に対して、教育委員会職員が鳥取城の歴史や復元計画についての講演会を毎年実施しており、話を聞いた生徒はすでに1000人を超えると聞いており、青年会議所、商工会、（一社）麒麟のまち観光局など地元との協働にも役立っている。本事例は、地元の市民団体「久松山を考える会」との連携指導のもと、教育委員会文化財課と都市企画課、道路課がコンセプトを共有し、一丸となって、景観に取り組んだ事例であり優秀賞に相応しい。（池邊）



保存整備基本計画により復元した擬宝珠橋（大手橋）と中ノ御門表門（大手門）。中ノ御門表門（大手門） 竣工イベントに沸く様子。



花見でにぎわう春の史跡鳥取城跡（久松公園）の様子。

## 優秀賞 「都市景観の日」実行委員会 会長賞

あち  
倉敷市阿知3丁目東地区

所在地 岡山県倉敷市

地区面積 1.7ha

応募者 あちてらす倉敷まちづくり協議会、倉敷まちづくり株式会社、倉敷市、株式会社アール・アイ・イー、株式会社藤木工務店

## 地区概要

当地区は、倉敷市中心市街地活性化基本計画の「中心拠点区域」に位置し、倉敷市の広域拠点のみならず、高梁川流域圏の広域拠点として、都市機能集積を誘引し、更なる賑わいを創出する市街地の形成を目指すとともに、「滞在快適性等向上区域」として公共空地などを活用した取り組みにより、官民一体となった居心地の良いまちなか創出を目指すエリア内にある。

当地区は、市街地再開発事業の施行により、①倉敷市の広域拠点の玄関口にふさわしい風格ある景観形成に寄与する建物デザイン、②倉敷美観地区からの景観に配慮した建物デザイン、③居心地の良いまちなかの創出を図る官民連携によるオープンスペースの整備を行い、土地の高度利用、都市機能の集積及び都市景観の形成を実現した。

## 審査講評

倉敷駅から観光の拠点である倉敷川畔美観地区に至るメインストリートに面した再開発事業の事例である。2010年倉敷市景観計画が施行され、当該地区における建築物の高さの最高限度の基準が定められたことにより、建物の高さを60.8mから31mに変更する必要が生じた。その後9年にわたり、景観地区である美観地区からの眺望も含め、都市景観審議会専門部会とのやり取りを行いながら、建物の高さ、ボリューム、分棟化、壁面の分節化、さらに素材、色彩、屋外広告物のデザイン、オープンスペースの利活用、隣接商店街の街並みへの配慮などが検討され、一定の成果をあげたことは評価できる。地方都市の再開発計画において、周辺地区の景観にも配慮をした「身の丈再開発」の事例として、他都市でも参考になるとと思われる。(卯月)



対象地区の東面全景。  
周辺建物などに配慮した建物の分棟・雁行配置。



東側の公共空地。  
ガラスサッシを採用して店舗の賑わいが外部に滲み出すよう演出。



街並みに馴染む景観を形成した旧一番街商店街沿い。



駅前中央通りから来街者の誘導を図り、滞留空間を演出した中央の公共空地。



# 優秀賞 「都市景観の日」実行委員会 会長賞

## 新山口駅周辺地区

所在地 山口県山口市  
 地区面積 約2.2ha  
 応募者 山口市、株式会社プランツアソシエイツ

### 地区概要

新山口駅は、かつて小郡駅と呼ばれ、山口県・市の陸の玄関口として古くから交通の要衝として発展してきた。平成19年策定の山口市総合計画において、市役所などが位置する山口都市核（文化交流拠点）と広域的かつ活発な経済活動を支える小郡都市核（産業交流拠点）という二つの都市核づくりビジョンが掲げられ、小郡都市核については、新山口駅を中心に、「ターミナルパーク整備構想」（新山口駅ターミナル整備+新山口駅北地区重点エリア整備）として、約13haの整備が進められてきた。

駅の橋上化や空港からの道路網整備などとあわせて、駅周辺の利便性を向上させるべく、平成23年に設計プロポーザルにより北口駅前広場設計者を選定し、「まちと駅をつなぐ0番線」をキーワードに、足掛け7年にわたって駅前広場の整備が行われた。平成30年の駅前広場完成以降も、南口広場整備や重点エリアの施設整備が続き、令和2年にエリア全体が完成した。

これらの整備に伴って、通過型の駅利用から滞在型へと人の流れにも変化が見られるほか、周辺にマンションが増え始め、地価も上昇するなど、地域の活性化という目標には一定の効果が見られている。

### 審査講評

精緻で美しく佇まいのよい駅関連施設である。かつて駅の南北を行き交うことさえ不自由だった時代には予想もできないほど、今は交流・発信の場として都市生活の拠点空間となっている。山口市の都市核づくりにより駅を中心とした小郡核がクローズアップされ基本計画が立案された。その柱となったのが駅前広場及び南北自由通路である。公開プロポーザルによる選定後、ヒアリング、シンポジウム、ワークショップを行い、計画内容や課題を市民と共有してきた。その結果、完成時期が遅れることとなるが、密度の濃い地域密着型のプロセスを経たことで、駅がもつ新たな価値や将来への可能性を獲得したようである。自由通路には垂直の庭と銘打った壁面状の庭園がある。専門家、リーダー、市民が協力し合い設置から維持管理までを行い共に学び育てる場となっている。サインや環境グラフィックは地域の個性や文化を伝える秀逸なもので、わかりやすく親しみやすい交通空間の重要な役割を果たしている。特筆すべきは供用後数年を経過したが後付けの張り紙など見当たらない。これは的確な街の情報環境が整っている証であろう。サインや照明などは隣接する別の開発エリアにも同様に展開されている。このように周辺への良好なデザインの連鎖が見られ、駅から始まる街づくりに今後も大いに期待が持てる。（富田）



西側上空より北口駅前広場全景を望む。



北口駅前広場グランドプラザを見る。ベンチや植栽を配置し居心地の良いスペースとなった。



改札口と直結する南北自由通路。24時間通行可能で、壁面緑化や足元を行き来する鉄道を楽しみながらゆったりと時間を過ごすことができる。



バス待合所。工事期間中、仮設バスのりばにデザインした「黒バス」のグラフィックが好評だったこともあり、本設のバスのりばにも採用した。

# 特別賞 「都市景観の日」実行委員会 会長賞

## 竹芝地区

所在地 東京都港区  
 地区面積 約28ha  
 応募者 3ページ記載の19団体

### 地区概要

当地区は、東京都港区JR浜松町駅東側の海岸沿いにある約28haの地区である。

バブル景気の際に整備が進んだが、その後も賑わいを維持する浜松町駅西側と2つの高架で隔てられ、色合いが褪せていた。

そんな中、東京ポートシティ竹芝とウォーターズ竹芝という2つの大規模な土地利用更新が同時進行したことをきっかけに、開発事業者や地元企業など民間事業者と、東京都、港区など行政の指導行政を超えた立場での協働が実現した。

新たな都市景観「世界を代表する水辺」を目指し、既存の公共・民有空間の魅力に、街の分断を解消する歩行者ネットワークや、既存の魅力を引き出すだけでなく、新たな方向性を与える民有空間を加えたこと、またそれらをエリマネ組織をはじめとする多彩な組織がシームレスに活用することで、緑と水と空が豊かな都市の中で、賑わいだけでなく、テクノロジーや環境共生といった次世代の都市を先行して体験できる都市景観を形成した。

ハードを活用する組織のバリエーションがこの地区の特徴であり、それ自体が、持続的に街のユーザーが豊かで多様な体験ができる都市景観を形成していくものとする。



東京都港区の海岸沿いにあり、竹芝ふ頭や旧芝離宮恩賜庭園、浜離宮恩賜庭園に囲まれた緑豊かな立地。



東京ポートシティ竹芝オフィスタワーのスキップテラス全景。1～6階へと、立体的に緑あふれるオープンスペースが展開している。

### 審査講評

応募地区は東京都の旧芝離宮恩賜庭園を含み、竹芝棧橋までのかなり広い地区である。今回の応募はこの範囲で展開されているエリアマネジメント組織である(一社)竹芝エリアマネジメントを中心として、19者の連名でなされた。広い地区内で近年進められた目立った二つの開発がある。一つが都が行った事業提案募集に基づき進められた東急不動産と鹿島建設などによる「東京ポートシティ竹芝」であり、もう一つはJR東日本などによる「ウォーターズ竹芝」である。両者の間に位置する都立芝商業高校も応募者に名を連ね、学校敷地の一部では環境緑化など地域に開かれた造りが見られる。先記の二つの大規模開発は同じ時期に進められたにもかかわらず、景観としての協調や調整などはほぼ見られない。ただ通常は個々バラバラの開発はバラバラのままであるのだが、この地区の場合、地区全体がマネジメント団体としてまとめ、様々な活動が地区内各所で連携して展開されつつある。狭い意味での景観としての成果は限定的であるものの、人々の活動まで含めた景観という意味では今後に期待できる。都市の景観づくりとしてこれら取り組みの意義を認め、それが成果を挙げつつある状況と評価し、特別賞としたものである。(高見、岸井)



港歩行者専用道路8号線：賑わいを分断していた鉄道高架と首都高速道路高架上に歩行者動線を形成。



ウォーターズ竹芝から、汐留川を臨む。地域の人々がくつろぎ、あたたかも地域の公園のような存在となっている。

## 景観まちづくり活動・教育部門 受賞活動一覧

### 大賞 国土交通大臣賞

活動名	活動エリア	応募者
しらかわ 白川「緑の区間」における 水辺の賑わいを創出するための地域活動	熊本県 熊本市	・白川「緑の区間」利活用推進協議会

### 優秀賞 「都市景観の日」実行委員会 会長賞

活動名	活動エリア	応募者
松本の都市デザイン・ 景観を考える講座・ワークショップ	長野県 松本市	・松本市
近江八景と東海道でつながる 大津市と草津市の景観づくり	滋賀県 大津市・草津市	・びわこ大津草津景観推進協議会 ・公益社団法人滋賀県建築士会 大津地区委員会・同湖南地区委員会
アーバンデザイン・ スマートシティスクール松山	愛媛県 松山市	・松山アーバンデザインセンター

### 特別賞 「都市景観の日」実行委員会 会長賞

活動名	活動エリア	応募者
世界文化遺産 姫路城中曲輪バタフライガーデン創造事業	兵庫県 姫路市	・姫路市立白鷺小中学校 ・白鷺学校運営協議会

## 総評

審査委員長 小澤 紀美子

本部門への応募数が減少傾向にあることは残念だが、新型コロナウイルス感染症拡大の状況下においても現地視察を踏まえて大賞と優秀賞と特別賞を選出することができた。応募いただいた活動は多彩で地域の独自性を踏まえ、さらに魅力的な取り組みであったと思う。

まず、第一次審査では、書類に記述されている内容で審査を行った。それぞれの専門とする分野の視点から活発な議論が展開されたが、その評価のポイントは募集要領に記載されている5つの評価軸、①継続的な取り組み、②取り組み主体の連携性、③実施方法や内容の独自性、④双方向性や対話性、さらに⑤波及効果や良好な景観形成などに対する顕著な効果の発現性、である。こうした評価点に基づいて現地へ赴いて、専門的な視点からも評価を確実に行うこととし、現地視察・調査の対象を絞り込んだ。

第二次審査は現地視察・調査の結果を各担当の審査委員が審査会でパワーポイントでのプレゼンを行い、今年度は大賞として1件、優秀賞として3件、さらに特別賞1件を選定した。特に、今年度の特別賞は、国宝として指定されている城郭、姫路城の特別史跡エリア内での姫路市蝶のジャコウアゲハの飛び交う生育環境の保全を目指し食草のウマノスズクサを植えて「400年前の姫路城築城当時の城下地域」の再現を目指しており、重層的な生活文化への新たな価値と命のつながりを見出す活動として時間が紡ぎ出す「景観」という独自の取り組みとして特別賞として評価することとした。

受賞された各取り組みや実践に関しての評価に関しては、各審査講評を参照していただきたいと思う。評価されたそれぞれの活動は地域の活性化や持続性をめざして、地域の住民の方々や次世代を担う方々との連携と学び合う関係づくりをしながら人材育成など着実に進めており、活動の効果の発現・発信に向けての魅力的な努力が行われているといえる。

今回、惜しくも受賞を逃した団体の活動にも多くの評価すべき点があるが、本部門の評価ポイントとしての5つの評価軸に配慮していただき、さらに受賞活動団体の受賞理由を熟慮していただき、今後とも活動を継続して、再度の応募を期待している。次年度も、多彩な活動による全国各地の成果の応募を期待したいと思う。

## 大賞 国土交通大臣賞

## 白川「緑の区間」における水辺の賑わいを創出するための地域活動

活動エリア 熊本県熊本市中央区 白川「緑の区間」

応募者 白川「緑の区間」利活用推進協議会

## 活動概要

白川「緑の区間」は、長年の住民との合意形成を経て、景観と治水対策の両立が図られた河川整備により、貴重な自然をまちなかで堪能できる良好な河川公園となっている。

地元主体で構成される白川「緑の区間」利活用推進協議会は、当該区間を対象に、市民や民間事業者のアイデアや活力を最大限生かす空間として活用し、水辺の賑わい創出、魅力あるまちづくり及び新たな産業の創出に貢献するとともに、当該区間の魅力向上はもとより、中心市街地全体の活性化につなげていくことを目的とし、「白川夜市」をはじめとした地域主体の活動を、継続的に取組んでいる。

これらの活動は、多くの機関や人が関わっており、長年の月日や活動の蓄積の結果、現在の連携体制や地元住民との信頼関係が構築され、公共空間の有効活用だけでなく防災意識の向上へのつながりなど、地域からの関心や期待も非常に高いものとなっている。

また、様々な地域活動の企画運営だけでなく、定期的な除草などの維持管理活動を通じて、河川空間の日常的な環境整備にもつながっている。

## 審査講評

阿蘇山のふもとを源流として有明湾に流れる白川水系の大甲橋から明午橋の少し手前までの左岸区間での取り組みである。平成23年3月に「河川敷地占用に係る規制」が緩和されたのを契機に「ミズベリング白川74」の実行委員会が設立され、「白川『緑の区間』の利用を考える協議会」に発展して、民間活力による水辺空間のにぎわいの創出、中心市街地活性化、魅力あるまちづくりなどを目的に活動が展開されている。「白川夜市」などの社会実験を定期的実施しながら民間事業者が継続的に営業活動を行えるよう認知度の向上やイベントの定着を図るとともに、「水辺の賑わい」創出にとどまらず自然への意識の涵養、さらに市民活動の活性化による「自助」「共助」の育みとともに、地域住民、商工団体、国、市などの多様なステークホルダーで構成する連携・協働による組織運営により「公助」への「見えない啓発」活動など高く評価できる活動である。コロナ禍においても人と人との距離をおく取り組みにも工夫があり、さらに対岸のライトアップによる一般通行者への視野の広がり工夫するなど、地道な取り組みに見える背景に大学人や行政による支援活動があり、この区間が「都市・地域再生等利用区域」に指定され河川空間のオープン化への道筋への可能性を示していることは大きな成果であり大賞に値すると評価された。(小澤)



白川「緑の区間」の現況（整備後）。  
大甲橋より明午橋を望む。



社会実験BBQの様子（2016年4月）。



白川夜市（2018年4月～）。  
バラエティーに富んだ露店の出店や企画など。



緑の区間堤防嵩上げ整備検討における地元WS（2021年10月）。  
地元自治会長をはじめ多くの地元住民が参加。

## 優秀賞 「都市景観の日」実行委員会 会長賞

# 松本の都市デザイン・景観を考える講座・ワークショップ

活動エリア 松本市

応募者 松本市

### 活動概要

松本市では、都市デザイン活動として市民の方々と一緒に、景観の成り立ちを共に考え、理解を深めるため、街歩きやワークショップを連携させた講座を行ってきた。講座においては、まちや景観を「知る」ことだけでなく、より良く変化をさせる活動と結びつけたり、まちや景観を表現して、人に伝える取り組みを重視し、より良い景観形成に必要なまちのコミュニケーション力を高める活動を地道に続けてきた。

講座参加者が小公園や広場の使われ方を観察し、使い方を試すなどの経験を踏まえてその場の本来の使われ方やランドスケープについて対話することで生まれた提案による空間改修では、利用者の増加や景観の向上が図られた。

また、看板に関する講座では参加者が看板を深く読みとき景観を考えるレベルの高い原稿を書き、「私の看板物語」という冊子を発行するなど、景観を語り伝え、対話するコミュニケーション文化を育むことにつながっている。

### 審査講評

松本市の中心市街地に大型ショッピングセンターが建設されることを契機に、2009年民間有志による学習会がスタートした。それを受けて、公民館が「景観講座」を開始し、松本市は2014年都市デザイン担当、都市デザイン戦略アドバイザーを設置した。その後、お城周辺の湧水を生かした街かど広場などの空間整備にあたっては、景観講座で学んだ市民がワークショップを実施する中で魅力的なデザインが実現した。さらに、一連の市民と行政の連携は歴史的建造物の保全や民地内の小径の整備、屋外広告物の調査研究「松本看板講座」の成果として「私の看板物語」の発行、古い看板を生かした事業などにも発展していることは興味深い。公民連携の都市づくりがこの8年間実践され、成果をあげていることは、高く評価できる。(卯月)



お気に入りの石を埋め込むワークショップを行い、子どもたちが景観に対する興味をもつきっかけを創出した。



伊織霊水前小公園は、ワークショップの意見を反映することで、子どもたちが遊ぶ広場となった。



隣地との壁を取り外し、植栽の変更・設置物再配置を行った結果、広場が心地よくなった。もともとあったガス灯の光を活かし、夜間景観の創出も行っている。



令和2年度の講座では講座参加者が注目した看板の店舗について自ら取材・執筆し、GoogleSlidesを活用してオンラインでレイアウトや編集作業も行って完成したページの数々。

## 優秀賞 「都市景観の日」実行委員会 会長賞

# 近江八景と東海道でつながる大津市と草津市の景観づくり

活動エリア 滋賀県大津市及び草津市

応募者 びわこ大津草津景観推進協議会、公益社団法人 滋賀県建築士会大津地区委員会・同湖南地区委員会

### 活動概要

琵琶湖を挟んで向かい合う大津市と草津市は東海道宿場町における歴史文化、「近江八景」に象徴される美しい景観で密接につながっている。一方で両市は景観行政団体であることから個別に景観形成の取り組みを進める状況にあった。この状況の中、公益社団法人滋賀県建築士会大津地区委員会・同湖南地区委員会が広域景観連携に向けた両市民の機運を高めることを目的に行政と協働し、琵琶湖と東海道の風景を共有していることを実感できる啓発事業を実施した。これら取り組みを契機として、両市で広域景観形成を進める機運が高まり、地方自治法の規定に基づき両市広域連携を図る「びわこ大津草津景観推進協議会」を議会の議決を経て設立。また一層の景観連携推進のため、景観法に基づく「びわこ東海道景観協議会」を設立のうえ、両市共同の「びわこ東海道景観基本計画」を策定した。現在は、この計画を基に市域を越えて、行政、市民及び事業者が一体となって良好な広域景観形成に資する様々な事業に取り組んでいる。

### 審査講評

琵琶湖、東海道の景観形成に関する様々な活動が評価され、優秀賞となった。現地審査において、両市の連携による多くの市民啓発活動、東海道統一案内看板の作成と設置、びわこ東海道景観基本計画に基づく協議会について、充実した取り組みがされていることが理解できた。対岸から見た琵琶湖周辺の景観は、人口の急激な増加や環境の変化など、多くの課題を表出している。美しい近江八景、東海道の景観を再構築していくことは、観光資源を守るという事だけでなく、住民の方々のよりよい生活、環境保全の意味でも重要であることも分かった。東海道の統一案内看板は数も増えてきたとのこと、さらなる充実を期待する。今回の審査では、地元の学校でどのように景観に関する教育が行われているかは分からなかったが、おそらく多くの学校に於いて、琵琶湖や東海道に関する学習が行われていることであろう。将来は学校教育との連携も視野に入れることができれば、より大きな成果を得ることができるものと思う。いずれ、大津市、草津市から東海道全域に多くの看板が設置され、看板を巡る東海道の旅が実現できることを願っている。(楚良)



公益社団法人滋賀県建築士会大津地区委員会・同湖南地区委員会主催事業「急がばまわれ 瀬田の唐橋」(平成24年)。



「景観づくりチャレンジ隊」東海道統一案内看板のベンガラ塗り体験(令和元年)。



「景観づくりチャレンジ隊」対岸景観クルーズ(令和2年)。



滋賀県草津市に設置されている東海道統一案内看板。

優秀賞 「都市景観の日」実行委員会 会長賞

アーバンデザイン・スマートシティスクール松山

活動エリア 愛媛県松山市（道後、花園町通り、松山市駅前、松山駅前など）

応募者 松山アーバンデザインセンター

活動概要

アーバンデザイン・スマートシティスクール松山は、チーム毎に個別敷地の歴史的成り立ちを踏まえた実践的なまちづくり活動を学ぶ場である。さまざまな受講者同士が互いの敷地をモビリティで結びつけ、景観とツーリズムがどのような相互作用を生み出すのか、滞在時間、訪問頻度などの計量化によるまちの魅力再評価を通じて、今までにはないまちづくりを学ぶ工夫を施している。

松山アーバンデザインセンター（UDCM）が活動初期において取り組んだみんなのひろばの社会実験では、まずやってみることに重きを置いた教育プログラムを開発してきた。その経験を次の段階では、花園町通り、松山駅といった複数の敷地の市民教育プログラムへと発展させ、受講者のデザイン教育プログラムの深度化を目指した。今回のスクール活動では、プログラムデザインとその実践を、スマートシティ技術を用いて発展させ、松山の新たな移動風景づくりと学びの場づくりに取り組んでいる。

審査講評

松山アーバンデザインセンターの活動は、花園町通り改修や地域の景観資源を使いこなす多くの成果を生み出してきた。これらは公民学の連携を重ね、地域の仕組みとして定着させてきたことの賜物である。こうした活動を長期間維持するには、担い手の入れ替わりによる停滞の回避や、活動が途切れないようなプログラム企画がポイントになる。本活動ではディレクターを若手研究者や市派遣者が担い、高校生から大学院生の幅広い年代の若者が参加することによって、継続的な担い手確保と理解者支援者の拡大が実現している。それに加えて交通分析の可視化や最先端技術の導入など、他地域では一般的でない分野の研究者・技術者の参画により、まちづくりのイメージを変える戦略的な取り組みが行われている。松山では今後も重要な公共空間の整備が続く。アーバンデザイン・スマートシティスクールの活動が奏功し、市の骨格が豊かな空間として実現し、それを使いこなす市民の活動が継続していくことを期待する。（福井）



市民WSを経て整備された社会実験拠点施設「みんなのひろば」。



学生スタッフが運営を担った花園町通りでのプログラム実施（オセロやブロック遊び）の様子。



アーバンデザインスクール受講者によるプログラム実施（夕焼け鑑賞空間・機会の提供）の様子。



令和3年度スクール受講者による活動プランづくりに向けた意見交換の様子。



## 特別賞 「都市景観の日」実行委員会 会長賞

# 世界文化遺産 姫路城中曲輪バタフライガーデン創造事業

活動エリア 兵庫県姫路市本町（姫路公園）

応募者 姫路市立白鷺小中学校、白鷺学校運営協議会

### 活動概要

本校は世界文化遺産・国宝姫路城の中曲輪（内堀と中堀の間）に位置する姫路城の眼前にある学校である。姫路市の市蝶にもなっているジャコウアゲハは、姫路城を築城した池田輝政の家紋が「揚羽蝶」であったことや、地元ではジャコウアゲハのサナギが「播州皿屋敷」の悲劇のヒロインお菊さんに似ていることから「お菊虫」とよばれるなど姫路にゆかりの深い蝶である。

「子どもも大人も市蝶を見たことがない。児童たちが栽培する絶滅危惧種でもあるウマノスズクサを本格的に育て、姫路城の眼前にジャコウアゲハの飛び交う400年前の風景を再現しよう！！」と姫路城中曲輪バタフライガーデン創造事業が始まった。

3年生によるジャコウアゲハ応援隊が食草と蜜源植物を植え、蝶が自然と増える環境づくりを行っている。姫路城周辺にも蝶が舞ってほしいとの思いから、中曲輪（姫路市本町）にある学校・企業・行政機関など40以上の諸団体や姫路駅周辺にある企業ともコラボしている。

2021年の春、活動の成果が表れ始め、お城周辺でもジャコウアゲハが飛び交いはじめた。



姫路東消防署において食草のウマノスズクサ植栽。

### 審査講評

姫路城周辺の地域をまるごとジャコウアゲハの住むピオトープにするという取り組みは、大変斬新なものである。まち全体の中心となる姫路城を、歴史的建造物としてだけでなく、動植物を取り込んで新しい景観として捉えているところが大きな魅力であると言える。活動を通じて博物館、美術館、消防署、私立学校、企業など、多数の団体と協働して、ネットワークを形成しているところが素晴らしい。小学校から中学校へと、様々な教科および総合的な学習の時間を、成長に合わせて関連付けられたカリキュラムに仕上げている点は、小中一貫校ならではのものであると感じた。また、クラウドファンディングを行うなど、公立学校とは思えない行動力である。姫路城と周囲を飛び交うジャコウアゲハ、あちこちに植えられたウマノスズクサが一体となった景観となって子どもたちの心に深く刻まれ、生涯大切なものとなることであろう。行政単位の大掛かりな景観事業と異なり、特色ある活動であることから、特別賞とした。（楚良）



子どもたちの食草プランターの準備をする地域ボランティアとPTA。



8年生が JR姫路駅の観光案内所、大手門茶屋、姫路城見学資料室に英語の観光カードを配架。



登校中にフェンスで羽化中のジャコウアゲハを発見し、観察する児童。

# 令和4年度 都市景観大賞について

令和4年度は、下記の通り「都市空間部門」と「景観まちづくり活動・教育部門」について募集しました。

## I 都市空間部門について

### 1. 表彰目的

都市景観大賞「都市空間部門」は、良好な都市景観を生み出す優れた事例を選定し、その実現に貢献した関係者を顕彰し、広く一般に公開することにより、より良い都市景観の形成を目指すものです。

### 2. 表彰内容

- ① 大賞（国土交通大臣賞） …………… 1地区
- ② 優秀賞 …………… 数地区
- ③ 特別賞 …………… 内容に応じ、適宜選定

### 3. 対象地区の要件

本賞は、街路・公園・水辺・緑地等のパブリックスペースと建物等が一体となって良質で優れた都市景観が形成され、それを市民が十分に活用することによって、地域の活性化が図られている地区を対象とします。単独の「公共施設・民間建築物（付属公開空地等を含む場合も同じ）・構造物（付属公開空地等を含む場合も同じ）」は対象になりません。

### 4. 応募者の資格

良質で優れた都市景観の実現に深く寄与した地方公共団体、まちづくり組織、市民団体、民間企業・コンサルタント、独立行政法人、公社等とします。

※多くの関係者による共同応募が望ましいですが、単独でも応募者になれます。  
※応募者に地方公共団体が含まれない場合には、地方公共団体の確認を得たうえで応募してください。

### 5. 審査

「都市景観の日」実行委員会内に設置される都市景観大賞審査委員会において、応募図書等をもとに、内容を審査（書類選考、現地視察、ヒアリング）した上で、表彰地区を選定します。

### 6. 審査委員

[委員長]

陣内 秀信 法政大学特任教授、中央区立郷土天文館館長

[委員]

池邊このみ 千葉大学大学院教授

卯月 盛夫 早稲田大学教授

岸井 隆幸 (公財)都市づくりパブリックデザインセンター理事長、  
日本大学特任教授

佐々木 葉 早稲田大学教授

高見 公雄 法政大学教授

田中 一雄 (株)GK デザイン機構代表取締役

富田 泰行 トミタ・ライティングデザイン・オフィス代表取締役

国土交通省 都市局公園緑地・景観課長

国土交通省 都市局市街地整備課長

国土交通省 住宅局市街地建築課長

(順不同、敬称略、令和4年3月時点)

## II 景観まちづくり活動・教育部門について

### 1. 表彰目的

都市景観大賞「景観まちづくり活動・教育部門」は、地域に関わる人々が景観に関心を持ち、自らの問題として捉え、その解決へ向けて活動できるよう意識啓発、知識の普及、景観法や景観に関する制度等（以下「景観制度」という。）を活用した取組等による活動を選定・顕彰し、広く一般に公開することにより、より良い都市景観の形成を目指すものです。

### 2. 表彰内容

- ① 大賞（国土交通大臣賞） …………… 1活動
- ② 優秀賞 …………… 数活動
- ③ 特別賞 …………… 内容に応じ、適宜選定

### 3. 対象活動の要件

景観まちづくり教育の実施や、街歩きや景観に関するセミナーの開催、景観制度を活用した取組など景観まちづくり活動の実施による良好な景観形成等のための活動を地域に根差して行っており、それらが地域の人々の景観への意識・関心の高揚等につながっている優れた活動を対象とします。

### 4. 応募者の資格

景観まちづくり活動や景観まちづくり教育による意識啓発、知識の普及、景観制度を活用した取組などを行っている、学校、まちづくり組織、市民団体、地方公共団体などで、かつ、地域に根差した活動を3年以上継続して実施している団体とします。

### 5. 審査

「都市景観の日」実行委員会内に設置される都市景観大賞審査委員会において、応募図書等をもとに、内容を審査（書類選考、現地視察、ヒアリング）した上で、表彰活動を選定します。

### 6. 審査委員

[委員長]

小澤紀美子 東京学芸大学名誉教授

[委員]

卯月 盛夫 早稲田大学教授

楚良 浄 東京都立学校非常勤教諭

福井 恒明 法政大学教授

国土交通省 都市局公園緑地・景観課長

(順不同、敬称略、令和4年3月現在)

■主催：「都市景観の日」実行委員会 \*下線は協賛団体も兼ねています

(公財)都市づくりパブリックデザインセンター、(公財)都市計画協会、(一社)日本公園緑地協会、(独)都市再生機構、  
(一財)民間都市開発推進機構、(公社)日本都市計画学会、(一財)都市みらい推進機構、(公社)街づくり区画整理協会、  
(一社)日本屋外広告業団体連合会、全国景観会議、都市景観形成推進協議会、歴史的景観都市協議会、全国街路事業促進協議会

■後援：国土交通省

■協賛団体：

(一財)都市文化振興財団、(一財)計量計画研究所、(公財)区画整理促進機構、(公社)日本交通計画協会、(一社)再開発コーディネーター協会、  
(一社)日本造園建設業協会、(一財)公園財団、(一社)ランドスケープコンサルタンツ協会、(公社)日本下水道協会、  
(公財)自転車駐車場整備センター、(公社)立体駐車場工業会、全国土地区画整理事業推進協議会、都市再開発促進協議会

■事務局：(公財)都市づくりパブリックデザインセンター

〒112-0013 東京都文京区音羽2丁目2番2号 アベニュー音羽2階 TEL 03-6912-0799 URL <https://www.udc.or.jp>